

来春の東広島市長選

大谷忠幸市議が立候補を表明

8年ぶりの選挙戦へ

来年4月に予定される東広島市長選挙に、市議会議員の大谷忠幸氏（54）が12月13日、立候補すると表明した。10日には現職の蔵田義雄市長（62）が3選を目指しての立候補を表明している。（福本晋平、橋本礼子）

「無投票好ましくない」

大谷氏は市議会本会議での一般質問で立候補を表明。議会内では蔵田市長への対立候補を立てようとする目立った動きはなかった。「無投票で決まり、という見方が強かっただけに突然の表明に驚いた」とある市議。

大谷氏は市議会本会議で「市長選が無投票になるのは、市政のために好ましくない」と説明。「市の将来像が見えにくい。具体的なビジョン、施策を示す必要がある」と指摘した。

現在市議の定数削減が検討されていることについて触れ、「定数を32から30にする方針が決められ、条例改正案が来年の定例会で提案される予定。その行く末を見守りたい」とし、市議辞職のタイミングは検討中とした。

現職の蔵田氏は市議、県議を経て2006年に東広島市長に初当選。2010年の前回選挙では無投票で再選を決めた。10日の市議会本会議では「引き続き市民の負託がいただければ、かじ取りを担っていきたい」と立候補する意向を表明した。選挙戦に突入すれば8年ぶりの市長選となる。

大谷氏に聞く 東広島市の課題

—今の東広島市政をどう感じているか。

—漂流しているようだ。エンジンがないのか、かじが切れていないのか。市が進むべき、明確なビジョンが感じられない。施策の目標をスローガンで終わらせず、具体的な将来像を示す必要がある。

—喫緊の課題は何か。

—ライフラインの見直しや整理と考えている。「水」は災害時にどれだけ水を確保し、安定供給できるか。「食」は農業の後継者問題や耕作放棄地の回復。「電気」は新エネルギーの模索が必要。水素発電に注目している。「ごみ・し尿」の処理の問題では最終処分場が後7年ではないかになり、新施設を決定しなくてはならない、まったなしの状態。

—どのようなまちを目指すのか。

—町おこしをして人口を増やす。そのために雇用を作り、教育環境を充実させ安心して住めるまちを。

にする。交通路を整理して近隣都市のベッドタウンになることも選択肢の一つだ。現在の交通マスタープランは人口が減少することを前提とした計画になっている。どのように人口を増やすかが大事。

—財政をどう見るか。

—デフレの中、箱もの事業を続けた。補助金があるから事業をするのではなく、本当に必要な事業を見極めて行うべき。補助金も回り回って私たちの税金だ。毎年2億円の赤字が出るとみられている市民ホールのランニングコストはしっかり議論していくべきだ。

—大谷さんが思い描く自治体のリーダー像は。

—きちんとした情報収集を元に、解析・合成ができる実務型のリーダーを私は目指したい。

—市長選の争点をどう考えるか。

—具体的な主張がなければ争点にならない。各候補者がどれだけ具体的に語れるか。現在準備中だ。



大谷忠幸（おおたに・ただゆき）氏

1959年2月28日生まれ。賀茂郡（現東広島市）高屋町出身。83年、大阪大学大学院前期課程修了。同年に新日本製鐵株式会社入社。03年、大阪大学で博士号（工学）所得。11年、有限会社大谷駐輪代表取締役就任。同年、東広島市議会議員に当選。